

日本生命倫理学会会報 No.61

●目次

第29回年次大会参加のお誘い	1
第10期代表理事決定のお知らせ	2
本年度会費納入のお願い	2
理事会報告	3～9
第29回定期総会のお知らせ	10～15
若手論文奨励賞授賞者を囲む研究会開催のお知らせ	16
次年度年次大会のお知らせ	16

日本生命倫理学会事務局
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町17-1
日本橋ロイヤルプラザ9F 904 号室
Tel. & Fax. 03-6231-0576
E-mail jab@nifty.com
URL <http://ja-bioethics.jp/>

◇第29回年次大会参加のお誘い◇

「臨床倫理・研究倫理コンサルテーションの現在と未来」を大会テーマとする日本生命倫理学会第29回年次大会（板井 孝彦郎大会長）を2017年12月16日（土）・17日（日）の両日、シーガイア・コンベンションセンター（宮崎県 宮崎市）において開催いたします。「プログラム」及び「参加申込振込用紙」は発送済みです。当日会場受付でもお申込みいただけます。

会期：2017年12月16日（土）～17日（日）

会場：シーガイア・コンベンションセンター

〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町浜山

会場への経路は下記サイトを参照下さい。

<http://www.seagaia.co.jp/japanese/access/>

<企画シンポジウム>

・大会企画シンポジウムⅠ「研究倫理コンサルテーションの最前線」（※同時通訳有り）

シンポジスト：David Wendler、會澤 久仁子 指定発言：Reidar Lie、武藤 香織

オーガナイザー：田代 志門、松井 健志

・大会企画シンポジウムⅡ「臨床倫理コンサルタントのバックグラウンドと

コンサルテーション活動のメリット・デメリット」

シンポジスト：瀧本 禎之、金城 隆展、長尾 式子

オーガナイザー：長尾 式子、瀧本 禎之

・学会企画シンポジウム「再生医療と人類の未来」

シンポジスト：阿久津 英憲、中澤 英輔、八代 嘉美

オーガナイザー：武藤 香織

<特別講演>

「写真が語る、いのちのバトンリレー ～被災地、紛争地、在宅看取りの現場から」

演者 國森 康弘 氏（写真家・フォトジャーナリスト）

*詳しい内容は大会サイトをご参照ください <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/bioethics29/>

◇第10期代表理事決定のお知らせ◇

第10期当選理事は、会則第10条および役員選挙細則第3条の3に従い、去る10月26日に当選理事の会を開催し、赤林朗理事（第1分野）を次期の代表理事に選出いたしました。

さらに、今後、会則第7条の2に従い、新理事会は5名以内の推薦理事を選任する予定です。

日本生命倫理学会当選役員名簿

1 分 野		2 分 野		3 分 野		4 分 野	
○●赤林 朗	○ 濱口 恵子	○ 板井 孝壱郎	○◎秋葉 悦子	○◎会田 薫子			
○◎浅井 篤	○ 藤野 昭宏	○ 伊吹 友秀	○ 栗屋 剛	○ 安藤 泰至			
○ 足立 智孝	○ 松井 健志	○◎大谷 いづみ	○ 位田 隆一	○ 池澤 優			
○ 有江 文栄	○ 三浦 靖彦	○ 大林 雅之	○◎一家 綱邦	○◎川口 有美子			
○ 有森 直子	○ 南 裕子	○ 香川 知晶	○◎稲葉 一人	○◎佐藤 雅彦			
○ 飯島 祥彦	○ 箕岡 真子	○ 樫 則章	○ 甲斐 克則	○ 島菌 進			
○◎大西 香代子	○ 美馬 達哉	○ 蔵田 伸雄	○◎神里 彩子	○◎田代 志門			
○◎加藤 和人	○ 宮坂 道夫	○◎児玉 聡	○◎神馬 幸一	○ 田代 俊孝			
○◎加部 一彦	○ 宮脇 美保子	○ 小松 美彦	○◎瀬戸山 晃一	○ 玉井 真理子			
○ 川島 孝一郎	○ 山本 洋一	○ 澤田 愛子	○ 野崎 亜紀子	○ 柘植 あづみ			
○ 川嶋 みどり		○☆清水 哲郎	○ 広井 良典	○ 鶴若 麻理			
○ 河原 直人		○ 霜田 求	○ 本田 まり	○◎武藤 香織			
○ 小杉 眞司		○ 仙波 由加里	○☆丸山 英二				
○ 小西 恵美子		○◎堂園 俊彦	○◎横野 恵				
○ 早乙女 智子		○ 中澤 栄輔					
○ 酒井 シヅ		○◎服部 健司					
○ 佐倉 統		○ 藤田 みさお					
○ 高橋 尚人		○ ベッカー, C					
○◎瀧本 禎之		○◎松田 純					
○◎手島 恵		○◎松原 洋子					
○ 中尾 久子		○ 森岡 正博					
○ 長尾 式子		○ 山本 圭一郎					

任期：2017年定期総会～2020年定期総会 ●代表理事 ◎理事 ☆監事 ○評議員

◇本年度(2017年度 2017.4.1～2018.3.31)会費納入のお願い◇

本年度(2017年度)会費および過年度分の会費が未納の方は、年会費を大至急お振り込み下さい。

★2年以上会費未納の会員は退会扱いとなり、会員資格を失うことがありますのでご注意下さい。(会則第4条7項の(2))

なお、退会のお申し出は前年度中においてお願いしております。年度途中での退会に際しましては、会費をお支払いただいておりますので予めご承知おき下さい。

また、会費をお振り込み下さった正会員には、学会誌「生命倫理」をお送りいたします。

◇理事会報告◇

◇2014年度(平成26年度)第3回理事会報告◇

(2014年12月26日(金)14:00~16:00 早稲田大学早稲田キャンパス8号館2階219会議室)

出席者：会田薫子、安藤泰至、板井孝彦、位田隆一、大林雅之、甲斐克則、香川知晶、児玉聡、後藤弘子、小松美彦、清水哲郎、霜田求、瀧本禎之、田代志門、柘植あづみ、手島恵、服部健司、仁志田博司(監事)、丸山英二 以上 理事18名、監事1名

欠席者：○浅井篤、栗屋剛、○河原直人、鈴木利廣(監事)、玉井真理子、○松原洋子、○宮坂道夫 以上 理事6名(○印は委任状提出者)、監事1名

主な審議・報告事項

1. 推薦理事、各種委員会の委員長の選任

推薦理事は分野、地域ごとのバランス、各種委員会委員長は新旧のバランスを考慮し選出

2. 第9期理事会運営方針の明確化

- (1) 若手研究者の育成
- (2) 各地の生命倫理関係の学会や研究会との連携
- (3) 関連学会との連携・国際交流の推進

3. 編集委員会関連

学会誌の電子化について承認

◇2014年度(平成26年度)第4回理事会報告◇

(2015.3.18 17:00~19:00 早稲田大学8号館2階219会議室)

出席者：浅井篤、栗屋剛、安藤泰至、池澤優、位田隆一、大林雅之、大西香代子、甲斐克則、蔵田伸雄、小松美彦、島菌進、鈴木利廣(監事)、田代志門、鶴若麻理、服部健司、野崎亜紀子、丸山英二、宮坂道夫 以上 理事17名、監事1名

欠席者：○会田薫子、○板井孝彦、○香川知晶、○河原直人、○児玉聡、後藤弘子、清水哲郎、○霜田求、○瀧本禎之、○玉井真理子、柘植あづみ、手島恵、仁志田博司(監事) ○松原洋子 以上 理事13名(○印は委任状提出者)、監事1名

主な審議・報告事項

1. 総務委員会関連

- (1) 若手研究者の育成についての具体的な検討課題の抽出(年齢区分、内容等)
- (2) 各地の研究会や関連学会との日常的連携については情報委員会で情報を収集
- (3) 各地の研究会や関連学会については、学会に限るのか等、対象の検討

2. 編集委員会関連

著作権規程の改正について審議し、著作権を学会に帰属させる方向で著作権規定の改正を進めることが承認

3. 情報委員会関連

- (1) ホームページに理事・評議員等の個人名を掲載することについて審議し、掲載することが承認
- (2) 会員への情報提供のあり方について改めて情報委員会で検討し提案することになった

その他

- ・「生命倫理(学)」および「バイオエシックス」という言葉が、科研費の細目においてなくなったことを受けて、代表理事からその復活などの働きかけを行うことになった。

- ・部会制の世話人から部会の進捗状況について報告され、その活動の具体化について検討した
- ・若手論文奨励賞の英語表記は Japan Association for Bioethics Young Researcher Award とし、略称を JAB Young Researcher Award とすることが承認
- ・名誉会員への証書案の内容について議論された
- ・学会の準備金の取扱い（引継ぎの 50 万円）を透明化する方策について検討を進める旨の提案があった。これまで年次大会事務局間で準備金を引き継いできたが、今後は一旦学会の会計へ返金する。また、返金先については、会計顧問の助言もあり、第 26 回大会の準備金については、一旦、学会の特別会計へ返金することとし、第 27 回大会以降は、一般会計口座に返金することが承認。

◇2015 年度（平成 27 年度）第 1 回常務理事会報告◇

(2015 年 7 月 7 日（火）17 時～19 時 早稲田大学 8 号館 8 階 808 会議室)

出席者：浅井篤、甲斐克則、河原直人、鶴若麻理、松原洋子、丸山英二 以上 6 名
欠席者：位田隆一、霜田求、柘植あづみ 以上 3 名

1. 年次大会 大会校の変更

2016 年度の年次大会の大会校が札幌医科大学から大阪大学へ変更になったことが経緯とともに報告

2. 部会の活動費用について

部会活動費用は 5 万円としつつ、活動内容を個別的に判断し、研究活動基金から支出することも考慮することとした。

3. 編集委員会関連

(1) J-stage への移行に際して、投稿規定、著作権規程の改訂が承認

現行の著作権の帰属先に関する規定を変えず第 3 条の規定を修正することで対応
J-STAGE での公開に同意することが掲載の条件であることを周知する

(2) 電子図書館利用同意書の改訂

(3) 広告掲載の申し出について

リベルタス出版から広告掲載の申し出を認め、広告の掲載場所は雑誌の最終ページ（編集後記の後）とし、広告料については、1 ページ 5 万円、半ページ 3 万円とした。

(4) CiNii から J-STAGE への移行について

すでに CiNii で公開されている過去の論文に関しては、著者にデータベースが J-STAGE へと変更となり、今後はオープンアクセスとなる旨を通知し、拒否の機会を保障することとする。また J-STAGE での公開については、学会員であることのメリットを確保するため、1 年間は見合わせるとの提案があり、承認。

4. 企画委員会関連

千葉大会の年次大会の抄録査読をふまえ、次年度以降、発表に際しての倫理的配慮について検討課題であるとの報告

◇2015 年度（平成 27 年度）第 1 回理事会報告◇

(2015.10.12(月) 18:00～20:00 早稲田大学 8 号館 219 会議室)

出席者：会田薫子、浅井篤、栗屋剛、安藤泰至、池澤優、板井孝彦、大西香代子、大林雅之、甲斐克則、香川知晶、河原直人、後藤弘子、小松美彦、島菌進、鈴木利廣（監事）、瀧本禎之、田代志門、柘植あづみ、鶴若麻理、野崎亜紀子、服部健司、松原洋子、丸山英二、宮坂道夫 以上 理事 23 名、監事 1 名
欠席者：位田隆一、蔵田伸雄、○児玉聡、清水哲郎、○霜田求、玉井真理子、手島恵、仁志田博司（監事） 以上 理事 7 名（○印は委任状提出者）、監事 1 名

総務委員会関連

(1) 若手研究者の育成

補助内容を登録料に限定すること、補助する学会の範囲、他のファンドとの兼ね合いを許容するか否か、補助対象者の選定方針等について、さらに検討し、より具体的な案を作成することになった。

(2) 各地の研究会や関連学会との日常的連携

情報委員会においても検討し、今後総務委員会の窓口担当者を決めて相談することとした。

編集委員会関連

(1) J-STAGE の利用に伴い必要となった査読規定案、広告等についての報告

(2) 査読のあり方につき、査読規定案を含めて質問があり、査読規定案の文言（特に「先行論文への目配り」という表現の適否）、総合的評価のみならず項目別に評価することの必要性、原著と報告論文との区別等の指摘があり、編集委員会で引き続き検討することとなった。

(3) 学会誌の投稿規定にも倫理的配慮について盛り込む件を編集委員会で検討することとした。

企画委員会関連

千葉大会の演題応募の際に、倫理的配慮が必要な研究があったことをうけて、大会校として、学会が終了した時点で、今年度の問題点をまとめて、検討が予定されている企画委員会に文書を提出することになった。次回大会以降のあり方について企画委員会で検討することとした。

- ・臨床倫理部会（2015年10月10日）に開催された公開シンポジウム「これからの臨床倫理」の報告
- ・2014年度決算報告
- ・甲斐代表理事が科研費の生命倫理、あるいはバイオエシックスの細目がなくなったことについて、文部科学省の担当部署に確認した結果について報告があった。日本学術振興会への働きかけについて話し合いが行われ、理事会名で請願書を出すこととした。

◇2015年度（平成27年度）第2回理事会報告◇

(2015.11.29 12:30～13:15 千葉大学亥鼻キャンパス めのはな同窓会館)

出席者：会田薫子、浅井篤、栗屋剛、安藤泰至、位田隆一、池澤優、板井孝壱郎、大西香代子、大林雅之、甲斐克則、香川知晶、河原直人、児玉聡、小松美彦、清水哲郎、霜田求、鈴木利廣（監事）、瀧本禎之、田代志門、玉井真理子、柘植あづみ、鶴若麻理、手島恵、仁志田博司（監事）、野崎亜紀子、服部健司、松原洋子、丸山英二、宮坂道夫
以上 理事27名、監事2名

欠席者：蔵田伸雄、後藤弘子、○島菌進 以上3名（○印は委任状提出者）

1. 編集委員会関連

著作権規定の改正案、投稿申込書一部文言の削除が承認。

査読規定第3条第4号の「先行研究の参照・言及」については、「先行研究の参照・言及・検討」に修正する提案がなされ承認。

2. 企画委員会関連

応募演題の抄録の査読に関連して、人を対象とする研究で倫理的配慮をしたかの記載について、演題の募集要項に「倫理的配慮」を記載する項目をつくり明確化することになった。

3. 国際交流委員会関連

中国の Qiu Reng Zong 教授を招聘してのワークショップの開催予定の報告

臨床倫理部会において、オランダから臨床倫理の専門家を招く案が提示され、国際交流委員会と連携し、セミナーを開催する方向性が示された。

4. その他

- ・代表理事から、かねてから要望が出されていた他の学会（例えば、アジア生命倫理学会）とのコラボレーションについて検討してほしい旨の意見がだされた
- ・非会員がシンポジウム等で報告する場合、参加費を徴収するか否か、予稿集を渡すか否かについて学会としての規定がないため、次回の理事会で検討することになった

◇2015年度（平成27年度）第3回理事会報告◇

(2016.3.29 16:00～18:20 早稲田大学8号館2階219会議室)

出席者：会田薫子、浅井篤、栗屋剛、安藤泰至、池澤優、板井孝彦、位田隆一、大林雅之、甲斐克則、香川知晶、河原直人、児玉聡、小松美彦、後藤弘子、清水哲郎、霜田求、鈴木利廣（監事）、瀧本禎之、柘植あづみ、鶴若麻理、手島恵、仁志田博司（監事）、野崎亜紀子、服部健司 以上 理事22名、監事2名

欠席者：○大西香代子、○蔵田伸雄、○島菌進、○田代志門、玉井真理子、松原洋子、○丸山英二、宮坂道夫 以上 理事8名（○印は委任状提出者）

1. 総務委員会報告

若手研究者の育成金の具体的な条件などについて、運営主体は研究開発委員会であることが明確化された。

若手研究者の育成金は審議の結果、30万円となった

各地の研究会や関連学会との日常的連携については、当面連携活動を積み上げて実績を作ることとし、予算化が必要になったら改めて検討することになった。

非会員のシンポジウムやワークショップ参加の際の参加費等については、年次大会内規等で検討することになった。

2. 企画委員会報告

年次大会発表要旨審査における研究倫理対応方針（案）の「4. 発表要旨の内容は未発表のものとする。」に関し、「未発表」のものとするという文言については議論があり、継続的に審議していくことになった

3. 部会関連報告

臨床倫理部会（医療倫理部会、国際交流委員会との共催）、基礎理論部会において、セミナー開催報告

部会については、補助金額の上限は5万であったが10万にすることが承認。

4. その他

・年次大会補助金を50万円から80万円に増額することが提案され、原則として50万円に抑えるという留保付きで承認。

・規約の改定に伴い、「日本生命倫理学会会則・細則集」を新たにつくり会員へ送付

・年次大会の収支に関して監査が必要との意見がだされ、審議の結果、総会では口頭にて予算収支の概要を報告することになった。

・学会の法人化について、総務委員会を中心に今後審議していくことになった。

◇2016年度（平成28年度）第1回理事会報告◇

(2016.9.25(日) 13:00～15:20 早稲田大学8号館219会議室)

出席者：会田薫子、浅井篤、栗屋剛、安藤泰至、池澤優、板井孝壱郎、位田隆一、大西香代子、大林雅之、甲斐克則、河原直人、小松美彦、島菌進、霜田求、玉井真理子、柘植あづみ、鶴若麻理、野崎亜紀子、服部健司、松原洋子、鈴木利廣（監事）、仁志田博司（監事）
以上 理事20名、監事2名
欠席者：○香川知晶、○蔵田伸雄、○児玉聡、後藤弘子、清水哲郎、瀧本禎之、○田代志門、手島恵、○丸山英二、○宮坂道夫、以上理事10名（○印は委任状提出者）

1 総務委員会関連

学会法人化についての種々の検討課題について説明があり、それを受けて理事会では、現段階で法人化を急ぐ必要はなく、常務理事会でも検討しないことを承認。

2 企画委員会報告

COI（利益相反）の基準を設ける必要性が指摘され検討していくことになった。

「年次大会の発表要旨の内容は未発表のものとする。」について議論があり、業績の二重カウントの問題等が指摘され、年次大会大会長とともにさらに検討していくことになった。

3 編集委員会関連

学会誌の判断基準として、「修正のうえ再提出されれば採択」と「修正のうえ再提出されれば、再査読のうえ採否を判断」の二つを明確に区別した

原稿の再提出を求める際に、査読者のコメントに対する修正箇所や修正の意図等の回答をはっきり求めることにした。

4 情報委員会関連

ホームページに謹呈本コーナーを設けていることの報告

5 国際交流委員会関連

本年度の外国人研究者招聘計画（候補）について、アラステア・キャンベル先生（シンガポール国立大学）が挙げられた。

6 研究開発委員会関連

吉田一史美さん「1950年代の日本における乳児の人体実験」を若手論文奨励賞の授賞候補として推薦する旨の提案があり、承認。

若手研究者育成のための助成について提案があり、内容、予算、ジャーナルの条件などを議論し、次回理事会で決定することになった。

7 その他

・会計処理についての申し合わせ事項について、引き継ぎのため従来の運用を明文化したとの説明があり、同案が承認。

・学会誌のJ-STAGEへの掲載作業については、費用面と作業スピードを考慮し、新たに委託する業者を検討することにになった。

・2019年度世界医事法学会（東京大会）について、生命倫理に関する事項も議論されるため、日本生命倫理学会として協賛の方向で進めていくことについて提案があり、承認。

・選挙のための会員名簿を作成し、名簿内容の項目は従来どおりとなった。

・昨年度の大会総会で会員から年次大会の収支決算の報告をしてほしいという要望があり、定期総会では資料とはせず投影資料として提示し、原則大会長が報告することになった。

◇2016年度（平成28年度）第2回理事会報告◇

(2016.12.4 12:20~13:35 大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター2会議室2南)

出席者：浅井篤、大西香代子、河原直人、手島恵、板井孝老郎、大林雅之、香川知晶、蔵田伸雄、
児玉聡、小松美彦、清水哲郎、霜田求、服部健司、松原洋子、栗屋剛、位田隆一、
甲斐克則、野崎亜紀子、丸山英二、会田薫子、安藤泰至、池澤優、田代志門、
柘植あづみ、鶴若麻理、鈴木利廣（監事）、仁志田博司（監事）
以上 理事25名、監事2名

欠席者：瀧本禎之、○宮坂道夫、後藤弘子、島菌進、○玉井真理子、以上5名（○印は委任状提出者）

1 企画委員会関連

継続的に審議してきた、年次大会の発表抄録の募集と審査、COIへの対応等について、企画委員会案を基に試験的に行い、数年後に確定版を作成することが承認された。

2 編集委員会関連

医学中央雑誌への『生命倫理』著者抄録の利用許諾契約を締結することが承認。

査読のオンライン化について、編集委員会で検討を進めることになった。

3 情報委員会関連

国際化のために、ホームページの英語化への道筋やリンク先の案を次回理事会で示すことになった。

4 研究開発委員会

「『若手育成助成』の募集・選考について、助成対象は、国際学会での発表、国際ジャーナルへの論文投稿・掲載とした。

申請できる者の条件は、本会の正会員あるいは学生会員で申請年次の会費が納入済みで、40歳未満（募集締め切り時あるいは論文掲載決定時）であることとした。

募集期間は各年2回で、1月末日と7月末日にする。助成の金額は、年度支給総額は30万円（前後期15万円ずつ）で、国際学会発表の助成金は半期総額10万円、国際ジャーナルへの投稿は半期総額5万円とする。（ただし、初回の募集は2月末日）

部会関連

臨床倫理部会主催の「日本生命倫理学会臨床倫理セミナー・シンポジウム2017」を来年3月25日（土）に、立教大学にて開催することが報告され、承認。

基礎理論部会では、11月26日（土）に公開シンポジウム「〈いのち〉はいかに語りうるか？」を開催した旨報告がなされた。

その他

共催シンポジウムなどの登壇者への旅費交通費の支給には根拠書類が必要であり、根拠書類がない場合は経費の支出ができないことが改めて確認された

国内旅費の場合は、宿泊費が上限1万円であり、それより低価格の場合は、その根拠書類を提出するようことも改めて確認された。

「生命倫理」のJ-STAGEへのアップロードおよび校正作業について、経費節約のため、27号より文成印刷に依頼することが報告され、承認。

選挙にともなう会員登録調査を実施する旨、報告がなされた。

◇2016年度（平成28年度）第3回理事会報告◇

(2017.3.29 14:00～16:25 早稲田大学 8号館 2階 219会議室)

出席者：浅井篤、大西香代子、瀧本慎之、手島恵、板井孝老郎、香川知晶、小松美彦、霜田求、服部健司、松原洋子、位田隆一、甲斐克則、丸山英二、会田薫子、安藤泰至、池澤優、田代志門、柘植あづみ、鶴若麻理、鈴木利廣（監事）、仁志田博司（監事）、以上 理事 19名、監事 2名

欠席者：○河原直人、宮坂道夫、大林雅之、○蔵田伸雄、児玉聡、清水哲郎、○栗屋剛、後藤弘子、野崎亜紀子、○島藺進、玉井真理子、以上理事 11名（○印は委任状提出者）

1. 企画委員会関連

抄録募集と倫理的配慮等の記載について

・「①人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について」に関し、記載は自発的である一方で、記載はないがインフォームドコンセントが必要な場合には、追記をお願いすることが確認された。

・事前の抄録内容と異なる発表があった場合の対応について、通知文に「抄録と異なる内容の発表をしてはならない」、「演題は変更できない」、「異なる内容の発表があった場合には、座長が発表を止める場合がある」旨の記載することが承認された。

・また上記の件については、座長が決定後、座長にも周知しておくことが確認された。

2. 情報委員会関連

特定の大学・研究機関の学生募集の学会ホームページ等への掲載について、ニューズレターには性質上掲載できないが、メーリングリストで可能かを含め、理事会での意見をふまえ情報委員会で検討してもらうという方針が示された。

3. 研究開発委員会関連

若手育成助成の応募は0件であったことが報告された

フェイスブックやツイッター等の SNS の活用について、試験的に行うとともに、情報委員会に報告して検討してもらうことになった。

4. 選挙管理委員会関連

選挙管理委員会増員のため、役員選挙細則 1 条 1 項に「ただし、必要に応じて 1 名増員することができる。」を加えることが提案された。審議の結果、以下の修正案が承認され、即日施行することとされた。

1 条 1 項および 2 項を以下のとおり改め、3 項以下を繰り下げる。

(役員選挙細則)

第 1 条第 1 項及び第 2 項を以下のとおり改正する。

1. 本会に選挙管理委員会を置く。

2. 選挙管理委員長は代表理事の推薦に基づき理事会が選出し、代表理事が委嘱する。

3. 理事会は、会則第 7 条第 1 号に定める 4 分野から各 1 名の正会員を、前項の選挙管理委員長とは別に、選挙管理委員として選出し、代表理事が委嘱する。

第 3～6 項を順次第 4 から 7 項と修正する。

5. その他

・公募シンポ・ワークショップにおける「非会員」の扱いについて、「非会員は 2 名まで」とすることが承認された。

・名誉会員規定の条件をみたく 2 名の会員について推薦に関する提案があった

・名誉会員規定の 2 条 2 号を「本会に 20 年以上在籍し、10 年以上理事・監事を務めた者」に改め、3 号を削除し、4 号を 3 号とする規程改正が承認

・「10 年以上理事・監事を務めた者」という文言を満たす者は少ないため、その改正について次回以降の理事会で審議することとなった。

・決算報告書作成業務について、学会顧問の山本税理士に委託することが提案され、承認。

議題2. 資料-2

◇ 日本生命倫理学会活動報告 ◇

(2016. 12. 3. ~ 2017. 11. 15)

年	月	日	活動状況
2016年	11月	7日	会報No.56発行
2016年	12月	3~4日	第28回年次大会（大阪大学）
		4日	2016年度評議員会
		4日	2016年度第2回理事会
		4日	2016年度定期総会
2017年	2月	1日	会報No.57発行 会員調査カード発送
		19日	『生命倫理』通巻28号第1回編集委員会
2017年	3月	5日	ニューズレターNo.61発行（第28回年次大会座長報告集）
		29日	2016年度第3回理事会
2017年	4月	9日	『生命倫理』通巻28号第2回編集委員会
		10日	会報No.58発行
		18日	2017年度第1回選挙管理委員会
		27日	会報No.59発行
2017年	6月	10日	『生命倫理』通巻28号第3回編集委員会
		27日	2017年度会員名簿発行 2017年度第8回評議員選挙関連書類発送
2017年	7月	30日	2017年度第2回選挙管理委員会（評議員選挙開票作業）
2017年	8月	29日	研究開発委員会（若手論文奨励賞選考委員会）
2017年	9月	5日	2016年度会計 監査
		28日	2017年度第3回選挙管理委員会（理事・監事選挙開票作業）
		29日	『生命倫理』通巻28号発刊
2017年	10月	9日	2017年度第1回理事会
		19日	会報No.60発行
		26日	当選理事の会
2017年	11月	10日	ニューズレターNo.62
		15日	会報No.61発行

議題3. 資料-1

決算報告書1

議題3. 資料-2

決算報告書2

議題4. 資料

貸借対照表

議題 5. 資料－ 1

2018 年度預算案

◇若手論文奨励賞受賞者を囲む研究会開催のお知らせ◇

来る第29回年次大会において、2016度（審査対象：通巻27掲載論文）若手奨励賞受賞者による研究発表が行われます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 2017年12月17日（日）9：45－10：30

場 所： 第29回年次大会 会場（E会場 4F：アイボリー）

発表者： 若手論文奨励賞受賞者 吉田一史美 氏

「1950年代の日本における乳児の人体実験」

◇次年度年次大会のお知らせ◇

第30回日本生命倫理学会年次大会は、瀬戸山晃一氏を大会長に、京都府の京都府立医科大学にて開催の予定です。

詳細は決定次第、学会ホームページ等でお知らせいたします。

◇『生命倫理』通巻29号への投稿をお待ちしております ◇

現在、学会誌「生命倫理」通巻29号への投稿論文を受け付けております。

締め切りは**2018年1月15日（当日消印有効）**です。投稿の際は、学会会則・細則にある投稿規定（学会ホームページにも掲載しています）を、よく御覧いただきますようお願い致します。また、投稿申込書を学会ホームページからダウンロードしていただき、必要事項を全てご記入の上、論文に添えてご提出下さい。

たくさんの投稿をお待ちしております。

◇「若手育成助成」制度のご案内 ◇

日本生命倫理学会の若手研究者を育成するために「若手育成助成」制度を設けることになりました。これは、国際学会において発表する若手研究者への参加費、渡航費等の一部助成、国際ジャーナル掲載にかかる費用の一部助成を行うものです。

申請の募集は年に2回（第3回は2018年1月20日から3月10日、第4回は2018年7月を予定）、手続きは事務局が担当し、審査は日本生命倫理学会研究開発委員会が担当します。詳しくは募集要項をご確認ください。